

# 金子耕式の **その11** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



## 不況の中の子どもたち

2010年、前年よりも更に深刻化する不況の中で、子どもを育てる親たちは大きな不安を抱えながら毎日を過ごしておられると思います。でも幸いなことに子どもたちは、たとえ家庭が経済的に苦しい状況にあってもそれで不幸だと感じることはありません。自分自身の子ども時代を振り返ってみると、そのことをはっきり断言できます。

今から40〜50年前、住宅事情はとても悪く、着るものは大抵お下がりで毎日の食事もおまじりずつと質素でした。おいしいケーキが食べられるのは誕生日とクリスマスの時だけで、それも私の時代は生クリームではなくバタークリームのケーキでした。

今年85才の私の父は、当時の暮らしがどれほど経済的に苦しかったか、思い出話をしてくれます。でも私には、あまり実感がわかないのです。子どもだった私はそのことで不安を感じたり、不辛だと感じたりすることがなかったからです。子どもというのは、経済的な豊かさによって安心したり幸せだと感じたりするのではないのです。どんな貧乏生活をしていても、親子が楽しい時を過ごし家庭の中に明るい会話が交わされていれば、「この家に生まれてきて良かった!」と感じるものなのです。

親の立場からすれば、子どもたちに少しでもよくしてやりたいと願うでしょうが、それはお金をかけることではありません。それよりずっと大切なことは、時

間をかけて子どもと関わることです。子どもたちはこんな不況の時代でも、親が自分と楽しいときを一緒に過ごしてくれるれば、十分に幸せだと感じるからです。

「一切れのかわいたパンがあつて、平和であるのは、こちそうと争いに満ちた家にまさる」(箴言17章1節)

## 貧しい家庭の豊かな人間関係

私には3人の子どもがいて上の2人はすでに成人していますが、子どもたちがまだ小さかった頃、彼らを寝かしつける時によく「パパの小さい頃の話」をしてやりました。そこで、ある晩のパパの小さい頃の話を再現してみましょう。

「ねえパパ、今日は何のお話?」

「うん、今日はねー、昔パパが暮らしていた古い家の話をしてあげるよ。パパは昔、おじいちゃんとおばあちゃんの家で生活してたわけだけど、その家は今と違ってとっても小さな家で、部屋は2つしかなかったんだよ。風が吹くと窓がガタガタと音を立てるし、雨が降ると雨もりがしたんだ」

「ねー、雨もりって何?」

「うん、その家は屋根がボロボロだったから雨の日は水が入って来て、天井からポタポタ落ちて来たんだ。それにねー、夏になると蚊帳を吊ったんだよ」

「えー! 何それ?」

「家が隙間<sup>すきま</sup>だらけで蚊が入って来ちゃうから、網で出来た四角いテントみたいなものを部屋の中に吊って、その中で寝

たんだよ」

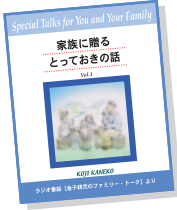
「えー、僕も蚊帳に入って寝てみたよ!」

とまあ、こんな具合です。お父さんたち、ぜひ自分の「パパの小さい頃の話」をしてあげてください。きつとお子さんは興味津々で聞いてくれますから。

ところで今、親たちはこの不況の中で、子育てに大きな不安を抱えていることでしよう。でも、子どものことを思うなら経済的なことを心配するより、こうした親子の楽しい時間を少しでも増やすことを考えてください。

実際、昔は今よりもずっと貧しく、子どもが小学生のうちには家族全員が一つの部屋で寝起きていました。だからこそ楽しい生活があつたとも言えるのです。

### 家族に贈る となっておきの話 Vol.1



四六版変形上製本 151P ●定価 1,575 円

### 家族に贈る となっておきの話 Vol.2



四六版変形上製本 148P ●定価 1,575 円

### 家族に贈る となっておきの話 Vol.3



四六版変形上製本 149P ●定価 1,575 円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフが元アナウンサーの金子耕氏が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。